



第5代 代表幹事退任のご挨拶



熊本大学発生医学研究所 教授

中尾 光善

2022年6月開催の第15回年会で3年間の任期を終えて、代表幹事を退任いたしました。ご協力を頂きました会員の皆様にお礼申し上げます。また、伊藤副代表、畑田庶務委員長（および副島前委員長）、中山広報委員長、牛島賞等選考委員長、第14回近藤年会長、第15回伊藤年会長と協働する貴重な機会に感謝いたします。

日本エピジェネティクス研究会（JSE）は、研究者の学術的・人的な交流を促進して、我が国のエピジェネティクス研究を推進するために2006年に発足し、もうすぐ20周年を迎えようとしています。世界をリードする先端研究、若手研究者の育成、そして社会と産業への貢献に役割を果たすことを目指しています。

JSEがコンパクトでハイクオリティの集団であること、学問の多様性、研究者の個性や好奇心を大切にしながら、我が国のサイエンスの原動力になることを期待しております。エピジェネティクスの研究分野では、生物種を問わず、生命現象に関わる全てが対象になります。発生、再生、遺伝、疾患、老化、環境適応などの根幹に触れるので、今、最も面白い分野であると言えるでしょう。何よりも未知の魅力が沢山あります。さらに、高速シーケンサーと質量分析、シングルセル解析、イメージング等による各種のオミクス技術を用いて、エピゲノムやRNA・タンパク質修飾が網羅的に分析可能になり、その結果、データベースの蓄積と活用、創薬・産業や異分野への応用に繋がるなど、まさに急展開が続いています。

このように、エピジェネティクス分野で「バイオロジー ⇄ テクノロジー」が相互増幅しています。バイオロジーが進むとそれを解析するテクノロジーが生まれ、新しいテクノロジーを用いて次のバイオロジーが展開する。これを繰り返して、私たちは生命現象の本質的な理解に迫ることでしょう。JSEの活動全般を会員とともに、社会にアピールするため、昨今の新型コロナウイルス流行の3年間に研究会ホームページ（日本語と英語）を全面リニューアルしました。さらに年会では第14回のオンライン開催、第15回のハイブリッド開催など、さまざまに工夫しました。これからもJSEがお互いに顔の見える研究会として、エピジェネティクスの現在・過去・未来を共有する場であることを心から願っております。



第6代 代表幹事就任のご挨拶



九州大学 大学院医学研究院 教授

伊藤 隆司

この度、日本エピジェネティクス研究会の代表幹事を務めさせて頂くことになりました。浅学菲才の私には身に余る大役ですが、歴代の代表幹事が会員の皆さんと築き上げられた善き伝統を受け継ぎつつ、微力ながら本研究会の更なる発展のために尽力する所存です。どうぞ、宜しく願い申し上げます。

本研究会は、エピジェネティクスを共通の関心としながらも様々な学会に分散して活動していた研究者達を分野横断的に統合するために2006年に発足しました。発足当時を思い起こすと、昨今のエピジェネティクス研究の深まりと拡がりには隔世の感があります。ヒトを含む動物・植物・微生物など多様な生物を用いて、発生・再生・分化・脳神経・免疫・環境応答・適応進化・疾患などあらゆる生命現象を対象に、分子・細胞・組織・個体・集団レベルでの研究が、基礎・応用の両面から活発に行われています。研究手法も次世代・長鎖シーケンシング、ゲノム・エピゲノム編集、一細胞・空間オミクス解析、クライオ電子顕微鏡などが加わり、情報解析はもとより人工知能や数理モデリングも取り入れられるようになってきました。この間、エピジェネティクスの重要性は、各学会で関連セッションが設けられることが珍しくない程に広く認識され浸透したと言ってもよいでしょう。

このようにエピジェネティクス研究を取り巻く環境は大きく変わりましたが、本研究会の活動の中心である年会は一会場での口演とポスターセッションという発足時のスタイルを踏襲しています。それは、参加者全員がエピジェネティクス全般を俯瞰した上で議論を深めることを何よりも重視してきたからに他なりません。もうひとつ本研究会が重視してきたのが次代を担う人材の育成です。若手の登龍門としての奨励賞を設けるとともに、色々な支援にも取り組んできました。この基本姿勢は今後変わることはありません。

一方で今般のコロナ禍は、学術活動のスタイルにも大きな影響を及ぼし、様々な変化を促しつつあります。その流れも見極めながら、今後の研究会活動の在り方を幹事の先生方とともに考えてゆかねばなりません。若手のみならず女性も十二分に活躍できる研究会、学界のみならず産業界や一般の方々にもこの分野の魅力をお伝えできる研究会、多様なバックグラウンドの方々に新鮮な気持ちで仲間に加わって頂けるような研究会を目指したいと思います。そして、何よりも会員の中からエピジェネティクス研究に新局面を切り拓くような斬新な発想やアプローチが生まれることを願っています。引き続き、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。



情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしくお願いたします。お近くの広報委員に気軽に e-mail ください。

(代表) 近藤豊 (ykondo@med.nagoya-u.ac.jp)
佐渡敬 (tsado@nara.kindai.ac.jp)
斉藤典子 (noriko.saito@jfc.or.jp)
沖昌也 (ma4sa6ya@u-fukui.ac.jp)
中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)

日本エピジェネティクス研究会事務局

群馬大学 生体調節研究所
生体情報ゲノムリソースセンター
ゲノム科学リソース分野内
庶務担当幹事：畑田出穂，担当：岩田浩美
住所：〒371-8512 群馬県前橋市昭和町3-39-15
TEL: 027-220-8111
E-mail: jse-jimukyoku@ml.gunma-u.ac.jp